

「研修会等名称」

大学イノベーション研究所2周年記念セミナー

場所：大正大学

期間：2016年6月4日

1. 研修の内容

地域政策学部で何度か講師として呼ばれている、山内太地氏の主宰する、大学イノベーション研究所2周年記念セミナーである。

年間150高校で講演し高校の実態をリサーチしている氏が、基調講演「地域創生と高大連携」を行った。

高大連携は現在、文科省の2020年のセンター入試改革のもとで、ペーパー入試中心だった上位校にとって、AL(アクティブラーニング)型入試と教育に切り替えを迫られる重要課題である。高大連携のもとで、ALなど新しい教育に取り組む大学が、いち早く高大連携で上位校と連携している実態が見えた。

また、会場となった大正大学からは、山本雅淑大正大学人間学部教育・学校経営マネジメントコース教授・総合IR室長が「魅力ある大学づくりに向けた職員養成」について報告した。文科省行政の場にいた山本氏が、行政の知識も踏まえた上で、全国的にも新しい取り組みである、大学職員養成を行っていることについて聴取した。

さらに、アオイゼミ津久井啓介氏による「オンライン学習塾による地方中高生の支援」で、地域にいて学習塾に行くことの困難な中高生へのオンラインを通じたサポートの取り組みを確認した。

その他、代表理事本間正人氏による「アクティブラーニングはどうあるべきか」、大正大学地域創生学部学監 柏木正博氏による「地域創生学部の取り組み」の報告があった。

その後、会場で参加者による交流会が開かれた。

2. 研修の成果

山内氏の「地域創生と高大連携」の講演は、現在すでに行われている、いくつかの大学の取り組みと高校の現場の実態を指摘する貴重な情報であった。

愛知大学は、中京大学と比しても、AO 入試や推薦入試を志望して勉強する気が少ない高校生の多いタイプの高校よりも上位の高校をターゲットとして獲得してきた。しかし、愛知大学が獲得できていないさらに上位校の高校においても、現在、2020年のセンター入試廃止・改革と新たな教育方法の模索において、揺らぎが生じていることを確認した。すでに全国的に、それらのレベルの高校に、新しい教育方法についてサポートする大学があること、新しい教育方法に取り組んでいる大学への高校の側の評価が厳しくなっていることを確認した。

その後、交流会で、さまざまな人と情報交換したが、例えば、河合塾の教育イノベーション本部教育企画開発部調査企画チームの方から、2020年に向けて、全国の学校がどのように取り組んでいるかのリサーチを行っていることを確認した。

また、教育・学校経営マネジメントコースの学生たちがどのような研究を行っているかを聞き取りした。

3. 授業への研修成果の反映状況

2020年入試制度変更に向けた、高校における新しい教育の取り組みという事態については、それとの大学の関係において、FD委員会の研修課題としてあると考えられ、通常のFD研修(フォーラム)での、2020年問題にかかわるリサーチの必要性を委員会に報告した。

いくつかの大学の教職員とのパイプができ、河合塾のリサーチ・研究セッションの方とも繋がることができ、今後、情報交換をすることができるようになった。開催地の関係もあって、東海地方の大学が少なかったので、競合性がない分、情報交換がしやすいメリットが考えられる。また、すでに高校での新しい教育方法の取り組みで知られている、岐阜県可児高校の浦崎太郎氏とも交流した。今後、情報交換や連携等ができると考えられる。

ただし、同志社の産学連携プロジェクト、PBL教育と研究のネットワーク(PBL: Project-Based Learning)が、学生たちの動員と使いまわしで疲弊に終わっているように、ALが現場はいずれ回り学習になる危険は常にある。本学でもさまざまな取り組みがすでになされている。高校のニーズがどこにあり、どのような実践が行われ、本学の教育とどう結び合わせることができるのか、丁寧に見ていく必要がある。